

OB通信

# 鳳 翩

復刊第19号

= 2016年12月 =

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会

## 鳳翩会

## 目 次

はじめに	鳳翔会会長 池富士 清	1
1 本部・支部連絡先		2
2 会長及び事務局からOBの皆さまへ		4
3 OB回（鳳遍会）総会		
（1）平成28年YUWVOB回（鳳遍会）総会報告		6
（2）収支決算書及び貸借対照表		9
（3）平成28年YUVW「OB総会 in 志賀島」を終えて	九州支部 天野 雅紀	10
（4）OB総会に参加して	農学 河村 莉佳	12
4 各支部活動状況（平成28年8月～平成28年11月）		
（1）東京支部 秋山 高弘		13
（2）関西支部 池田 純		14
（3）山口支部 古谷 眞之助		15
（4）九州支部 龍 純二		19
5 会員状況		
（1）高山登山記	東京支部 恵谷 浩	20
（2）近況報告	関西支部 秋山 泰寛	24
（3）東日本大震災5年後の福島旅行	山口支部 田原 宏	26
（4）近況報告	九州支部 清家 和子	28
6 同期会だより		
（1）同期会登山報告 八甲田山	九州支部 本園 明信	30
7 現役活動報告		
（1）2016年度合宿報告	経済 岡田 陽介	35
（2）第53回中国・四国合同ワンデリング報告	経済 古谷 嘉規	38
8 編集後記	農学 浅川 佑二	39

## はじめに

鳳翔会 会長 池富士 清

師走になり、何かとあわただしい時期になりましたが、会員の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、会の運営に対するご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

さて、10月22日～23日にかけて、九州支部の引き受けにより、福岡市志賀島において、2016鳳翔会総会を、50名を超える会員の参加を得て、盛大に開催することが出来ました。

九州支部の皆様には、会場、散策コース、懇親会など、素晴らしい準備、また、運営をしていただき、心より感謝申し上げます。総会の詳しい内容は、本OB通信に掲載しておりますので、ご覧いただきたいと思いますが、2015年の事業並びに会計の報告、会長選考要領の変更、次回総会の関西支部引き受けについて提案し、いずれも承認していただきました。

ここで、一つ、お詫びしておかなければなりません。と言いますのは、総会は、会の最重要行事であるにもかかわらず、会長である私が出席出来なかったことです。田中、田村両副会長に任せてしまい、参加された皆様に、誠に申し訳なく思うとともに、副会長お二人には感謝申し上げます。

ところで、総会の議題には揚げていなかったのですが、本OB通信の発刊時期について、何かと繁忙を極める12月から2月に変更出来ないかと、提案し、ご意見をお聞きしたところ、総会においては反対意見はなかったので安心していましたが、後日、会則に反するとのこと指摘もあり、元に戻し、12月発刊としました。この件につきましては、12月発刊の意義も含めて、次回総会に向けて検討していきたいと思っております。会員の皆様のご意見もお聞きしたいと思いますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

次に、会費の有効期限の連絡について、前号のOB通信郵送時の宛名の下に表示している有効期限に誤りがあり、一部の会員の皆様に、大変ご迷惑をおかけしました。訂正とお詫びの連絡は、直ちにさせていただきましたが、この場をお借りし、改めてお詫びしたいと思います。誠に申し訳ありませんでした。今後はより一層、発送前の確認を慎重に行い、今回のようなミスが無いように務めて参りますので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

終わりにになりましたが、今年は、春の熊本・大分方面の地震、夏の北海道・岩手の豪雨、秋には阿蘇山噴火、鳥取地震、そして、福島県方面の地震と、自然の脅威にさらされた一年でした。来年は、平穏な年になって欲しいものです。

会員の皆様のご健勝と新しい年が平穏であることをお祈りし、はじめの言葉とします。

平成28年12月

## 1 本部・支部連絡先

### (本部)

#### OB会会長

池富士 清 (農・昭和47年卒)

#### OB会副会長

田中 秀平 (農・昭和47年卒)

田村 伊正 (工・昭和53年卒)

#### OB会幹事

八谷 孝徳 (文・昭和54年卒)

三國 彰 (工・昭和55)

#### OB会事務局長

浅川 佑二

### (東京支部)

支部長 城戸 賢嗣 (経済・昭和49年卒)

副支部長 高田 哲生 (工・昭和49年卒)

事務局長 秋山 高弘 (経済・昭和53年卒)

### (関西支部)

支部長 池田 純 (工・昭和51年卒)

### (山口支部)

支部長 古谷 眞之助 (経・昭和52年卒)

### (九州支部)

名誉支部長 永沼 嗣朗 (経済・昭和39年卒)

支部長 龍 純二 (文理・昭和50年卒)

事務局長 天野 雅紀 (経済・昭和61年卒)

## 2 会長及び事務局からOBの皆さまへ

### (1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意願います。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先】

会長 池富士 清

事務局長 浅川 祐二

会費有効年に応じて、鳳翔会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア 新規加入の皆さま及びOB会費未納のため2014年までに会員資格を喪失された皆さま  
鳳翔会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票

新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長または、事務局までメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号 753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内  
宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

イ 会費有効年が2015年の皆さま

会費納入について(お願い)、郵便局払込取扱票

口座記号番号 01530-0-16050

加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部

個人会員年会費 2,000円 夫婦会員年会費 3,000円

※ 年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振り込み金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いいたします。

新規または再度会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱わせていただきます。

### (2) OB通信の送付について

OB通信は本来会員の皆さまだけに送付することになってはいますが、今回発行のものは住所を把握できているOBの皆さま全員に送付しています。ただし、脱会の方は除外しています。

(3) OB通信への寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。OB通信への掲載を希望される場合は、事務局まで原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いします。

なお、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長及び事務局長までお寄せください。

8月発行分	7月中旬
12月発行分	11月中旬

(4) 転居先連絡のお願いについて

OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通信の送付が遅れる原因になっています。

転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長及び事務局長まで連絡願います。

### 3 OB会（鳳翔会）総会

#### （1）平成28年YUWVOB会（鳳翔会）総会報告

平成28年のYUWVOB会（鳳翔会）総会が、下記のとおり開催されましたのでご報告いたします。

1. 日時 平成28年10月22日（土） 17：30分～17：35
2. 場所 休暇村志賀島
3. 参加人員 会員 54名 現役2名
4. 議事

開会の言葉の後、議事に先立ち物故者に対して黙とうを行った。

田中会長代理（以下会長とする）の挨拶の中で、昨年まで4年間にわたりOB会長を務められた武富敏夫氏のOB会発展への功績が紹介され、武富氏に対し参加者全員が拍手により感謝の意を表した。また、会長から8月OB通信発送の際に年会費の納入案内に手違いがあったことについてお詫びが述べられた。

総会出席者の承認を得て、九州支部笹田正一氏が議長に選任された。

#### 1) 決議事項

##### 【第一号議案 平成27年会計決算報告及び監査報告の件】

会長より、「収支計算書」「貸借対照表」「振替受払通知票」に基づき、平成27年1月1日から12月31日までの収支状況並びに平成27年12月31日現在の財産状況の報告がおこなわれた。

次に監査代理として田村伊正現副会長より、2月11日に会計帳簿等の監査をおこない、平成27年の収支計算及び期末現在の財産状況は適正であると報告がおこなわれた。

平成27年会計決算報告及び監査報告に関して、質疑応答はなく承認可決された。

##### 【第二号議案 平成28年事業報告の件】

会長より、OB会則第三章の規定に基づき、1月から10月の事業結果及び今後の事業予定の報告がおこなわれた。

平成28年事業報告に関して、質疑応答はなく承認可決された。

なお、事業結果及び事業予定は次のとおりである。

- 1) OB 総会の開催 10月22日～23日
- 2) 第一回 OB 通信の発行 8月13日（発送部数346組）
- 3) 山口大学ワンダーフォーゲル部に対する援助、助言指導等  
追いコン出席（3月19日）、新入生勧誘支援、海浜合宿支援（未了）、  
OB 総会現役参加支援等（計約10万円）
- 4) OB 会運営体制の整備  
同期世話人との連携強化のための連絡文書送付（6月28日）
- 5) 役員会等  
会計監査会 2月11日 山口大学 大学会館  
役員会 3回（4月、6月、9月）
- 6) 第二回 OB 通信及び会員名簿の発行 12月中旬の発送を予定しているが、  
2月への延期の可能性も検討しており、発行時期の判断は役員会に一任す

る（注：後日、役員による協議の結果、OB 通信は本来の予定通り12月に発行することとなった）

【第三号議案 会長等役員選出要領の改訂の件】

会長より、昨年の総会における会則改正により第6章に規定される役員に幹事が追加されたことを受け、会長等役員選出要領の第一項（2）に規定される選考委員に現役員の幹事を追加することが提案された。要領改訂に関して、質疑応答はなく承認可決された。

【第四号議案 平成29年総会開催地の件】

会長より、平成29年総会開催地を「関西支部」とする旨提案があった。平成29年開催地に関し、質疑応答はなく承認可決された。

なお、議案の終了後、関西支部長池田 純氏より開催引受にあたっての挨拶がおこなわれた。

(2)収支計算書及び貸借対照表

収支計算書（平成27年1月1日～12月31日）

（単位：円）

収入の部		
平成27年入金会費	57,000	
平成27年預り金振替	354,000	
OB 総会戻入金	70,000	
収入の部合計	481,000	
支出の部		
平成27年OB通信8月号関連	97,169	
平成27年OB通信12月号関連	62,702	
OB 総会関連	271,616	
ホームページ運営費	5,648	
追いコン差し入れ（酒、花）	10,183	
新入生勧誘助成費	50,000	
会長旅費	48,878	
通信費	2,983	
事務局費	17,200	
パソコン廃棄費	3,322	
雑費	514	
支出の部合計	570,215	
収支		
平成27年収支	▲ 89,215	
剰余金		
前年度繰越し	531,993	
翌年度繰越し	442,778	

### (3) 平成28年YUWV「OB総会 in 志賀島」を終えて

九州支部 事務局長 S61年卒 経済学部 天野 雅紀

4回目となる九州支部担当のOB総会。今回の場所は、国宝の『金印』が出土し、古くから全国海神社の総本社『志賀海神社』もある地として歴史的に有名な『志賀島』で開催しました。博多湾の入り口に位置する志賀島は、島と言っても砂州によって本土と陸続きとなっており、地形的にも非常に珍しい場所です。昨年からの候補地を話し合ってきた、歴史的な志賀島を散策できることや、アクセス途中で手頃な山行ができて、頂上から見事な景色が一望できる『立花山』があることなどから、すんなりと決まったように思えます。

日程は、宿泊場所の休暇村志賀島からきれいな夕日が見られる10月と例年より早めにしました。

しかし、そんな期待とは裏腹に22日当日は無情にもあいにくの小雨模様。「立花山からの見事な景色」も「休暇村志賀島からのきれいな夕日」も涙雨の向こうに消えてしまいました。

そんな中、立花山山行参加者の皆さんは予定通り11:30までにJR香椎駅に集合。大半の方は、事前に秋山さん、龍さんに下見をして頂いた、雨天時代替コースの『香椎宮参拝』へと向かってもらいました。楠並木の参道や重要文化財の社殿など、風情ある香椎宮を満喫して頂いたと思います。小雨模様の中、集合場所のJR香椎駅に雨対策完全装備の武富さんの姿が。えっ？立花山？なんと小雨の中でも立花山へ行かれる方が9名。武富さんの案内で無事に山行して頂きました。

余談ですが、集合場所のJR香椎駅とすぐ近くの西鉄香椎駅（2つの香椎駅）は、松本清張「点と線」の一場面になった場所として有名です。

総会・懇親会の場所は休暇村志賀島。現役生2名を含む総勢56名もの参加を頂き盛大に開催。懇親会では、たくさんの皆さんにご協力頂き、大変楽しい時間を過ごせました。ご参考に以下、懇親会での企画です。

《歓迎挨拶》九州支部 支部長 龍さん（志賀島の歴史についても紹介頂きました）

《乾杯》S41年卒 加藤さん（創部期のお話も伺えました）

《百名山完登報告》S49年卒 東京支部長 城戸さん（完登おめでとうございます！）

《創部期ビデオ上映》創部期 初代主将 S39年卒 九州支部名誉支部長 永沼さん作成

《熊本地震現状報告》S43年卒米沢さん（災害経験者の方に貴重な実体験を伺うことが出来ました）

《各支部、現役 活動報告》

東京支部：事務局長 S53年卒 秋山さん

関西支部：支部長 S51年卒 池田さん（次回のOB総会は関西支部主催です）

現役生：本部4年生 河村さん、工学部主将 合志さん（山口からの参加）

山口支部：田中副会長 九州支部：支部長 龍さん

《山の歌》S53年卒 山本さんの音頭で、声高らかに歌いました

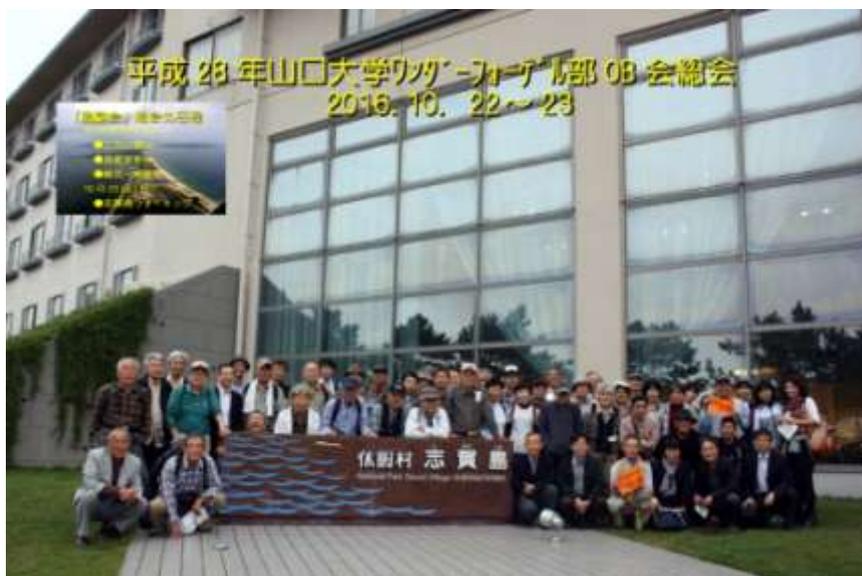
《中締め》S42年卒 秋山さん 地元博多の『博多祝い唄』『博多手一本』で締めて頂きました

その後2次会となり、皆さん遅くまで懇親が続きました。

2日目は休暇村志賀島から志賀島港までの『志賀島ウォーキング』、2時間程度の工程をゆっくりと歩いて頂きました。道もよく、丁度よいウォーキングになったのではないのでしょうか。

今年から九州支部事務局長を拝命した私にとって、今回のOB総会は初めての大きな仕事となりましたが、九州支部の皆さんや本部の方々の多大なるご協力を頂き、無事に終えることができました。

最後になりましたが、ご参加頂いた皆さんも含めて、本当に感謝致します。ありがとうございました。



#### (4) OB 総会に参加して

農学部 4 年 河村 莉佳

10月に開催されたOB会の総会と懇親会に現役生もお招きしていただき、工学部主将・3年の合志くんと一緒に出席させてもらいました。簡単ではありますが、出席した感想を述べさせていただきます。

まず総会ですが、OB会の活動報告や会計報告などを聞きました。普段OB・OGの方々に関わる機会はあまりないですが、OB会の方々がどのような活動をされているのか知ることができ、とてもよい機会になりました。

続いて懇親会では、ワンダーフォーゲル部設立当初やOB・OGの方々が現役だった頃の貴重なお写真を見せていただいたり、日本百名山に登覇されたOBの方のお話、ワンダーフォーゲル関係の歌を歌ったりと、内容が盛りだくさんでとても楽しい会でした。

私は今年度で卒業となりますので、今度はOGとして総会に出席させていただきたいです。最後になりましたが、今回はお招きいただきありがとうございました。これからも現役生をよろしく願いいたします。

## 4 各支部活動状況（平成28年8月～11月）

### （1）東京支部 活動報告

事務局 秋山高弘

東京支部の、H28年下期の活動実績並びに今後の予定は以下の通りです。

#### 【実施済み】

8月6日（土）

暑気払い

新宿三井クラブ 17:30～19:30 参加 24名

24名が集まって新宿三井ビル54階からの夜景とともに、料理やお酒を楽しみました。

思いがけず「いいだばし花火大会」が開かれており、花火を上から見下ろす経験もできました。

とてもきれいでした。



9月9日（金）

城戸支部長日本百名山達成祝い 並びに山口の地酒「東洋美人」を楽しむ会

福の花 五反田店 18:00～20:00 参加 16名

城戸支部長が8月に笠ヶ岳に登頂し、日本百名山登頂を見事達成されました。

そのお祝いを「東洋美人」飲み放題の店でやろうという事になり、熊谷先輩にお店を予約していただきました。当日は「東洋美人」の他に「貴」「獺祭」なども飲み干しました。

皆でお祝いの寄せ書きをし、記念写真とともに城戸ご夫妻にお渡ししました。



#### 【今後の予定】

1月～2月 新年会

年が明けて少し落ち着いた頃に、新年会を企画する予定です。

5月 連休の後あたり 初夏の山行

恒例の、初夏の山行を計画します。

以上

## (2) 関西支部 活動紹介

関西支部 池田 純

### 【2016 年後半 関西支部の活動紹介】

#### 後期活動状況

山行き関係は、関西支部としては特に行っていません。

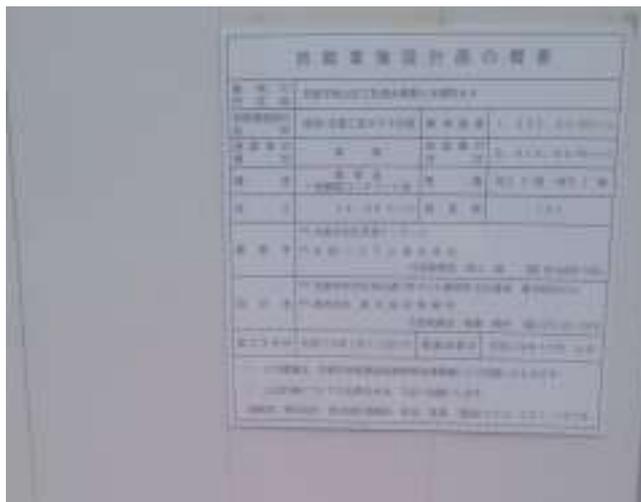
年始の幹部会で、総会は来年は関西支部であり、引き受けの方向で、場所は例年ごとく京都と決めて場所もいろは旅館ときめておりましたが今年の九州の総会でいろは旅館はつぶれたよとの声を聴きましたのでびっくり。現状確認に出かけました。

建屋は完全に取り壊されており、看板によれば京阪三条ホテルとして再出発するとあります。ネット情報では耐震構造に金がかかるので取り壊しとのこと。名前からして次は、単なるビジネスホテルになるのかもしれませんが。

京都ではここ最近外国からの観光客が大勢訪れます。三条あたりを散策するとなんだか日本でないような気がします。そういうこともあり、この時期の安い旅館探しは大変でしてそういう意味でいろは旅館はありがたかったのですが。

ということでこの時期は、改めて総会に向け場所探しを進めております。先ほどの事情で京都は難しそうです。

今支部の方が、いろいろと情報送っていただいておりますがなかなかうまく適合しません。



写真

ということで京都からそんなに遠くない滋賀あたりに落ち着くかもしれませんのでご了承ください。来年の1月13日に新年会をかねて幹事会を開催する予定です。このタイミングでどこにするか決定します。

OB会員の方で、関西に異動になったとか就職したとかいう方がおられたらぜひ一報ください

関西支部 支部長 メールアドレス：kiyoshi2660@ac-koka.jp

### (3) 山口支部 活動紹介

山口支部長 古谷 眞之助

#### 鳳翔会山口支部新企画② 「晩秋の野島で海鮮 BQQ」 2016.11.19/20



春の男岳登山に続いて、山口支部では秋のイベントを実施しました。名付けて「晩秋の野島で海鮮 BQQ」。野島は、防府市の沖合 15km に浮かぶ島です。次回は是非島でのイベントはどうでしょう、という話が春のイベントの際にあったので、周南市沖の回天記念館のある大津島と防府市沖の野島の二つを候補として選び、色々と検討した結果、魚が釣れる、乗船場での駐車場が無料という野島を選びました。

総会が 10 月開催ですから、秋のイベントはそれを避けて 11 月としたのですが、どうやら、吹きさらしの寒いキャンプになりそう、おまけに船が欠航すれば閉じ込められると思った人もおられたようで参加者は以下の通り。敬称略、年寄り順です。



【防府市三田尻棧橋 野島海運「あかね号」】

52 経 古谷 眞之助  
52 文理 古谷 恵子  
54 文理 八谷 孝徳  
55 工 三國 章  
57 理 坂田 信一  
61 工 浅野 哲郎

一番若く、釣り好きの浅野さんは、18 日金曜日から野島入り。夜釣りで大釣果を狙ったものの、朝方にかけての雷雨で、早朝から釣行開始。当日朝一便で入った三

國さんがそれに加わりました。後発隊の 4 名は、新鮮魚介類の廉価販売で有名な「潮菜市场」に集合して、二人の釣果を確認後、必要な魚介類と野菜等を購入して 12 時 30 分の便で出発しました。船便は高速艇に更新されて、野島までは約 20 分。



野島は面積  
0.73k m<sup>2</sup>、人口  
117人の漁業  
の島で、素泊ま  
り民宿一軒、売  
店はなし、とい

う小さな島ですが、島の周囲は有名な好漁場となっていて休日には釣り客で賑わいます。ここには野島小・中学校があります。生徒は11名ですが、島の生徒は3名で、8名は本土から通っているのだとか。このような制度をシーサイドスクール制というのだそうです。船が港に入る前に、突堤の先で竿を振るう二名の先発隊ワンダラーを確認。後発隊は、釣果を気にしつつもBBQ準備のために、急いで荷物をキャンプ場へと運び込みました。一輪車にキャリアバックは、年寄ワンダラーには必需品。しかし、一輪車は往復船賃600円、釣り竿持参の人も300円、キャリアバックの持ち込み運賃は260円です。

港から距離にして750m、歩いて10分でキャンプ場に到着です。キャンプ場は使用料無料。しかし、オフシーズンの今は、宿泊棟、シャワールームは閉鎖で、炊事棟とトイレのみ使用可ですが、我々にはそれでも十分すぎるほど。早速、火を起こし、釣り部隊の到着を待ちます。すでにビールも空き始めます。そうこうしているうちに、突堤の先から先発釣り部隊が到着しました。気になる釣果や、如何？

何と、何と！立派な鯛にカワハギ、そしてアジが7匹・・・早速釣り師兼料理人の二人が捌きました。さすがに手慣れた包丁さばきの二人なのでした。



トは、もっと見直して良いかも島のワンデリングを思い出し、あることを痛感させられたので上は、念の為に購入してきているところ。イカも少し購入。

アジの塩焼きから開始です。ビールがプシュ、プシュと空いていきます。そして、美味しい、美味しいの歓声が続きます。幸い、天気も回復基調、そして、この時期にしては気温も20度近くと、吹く風も心地よいくらいです。やはり、美味しい海の幸をいただきながらのイベントは



です。山では、けにはいかな

悪くないです。いやいや、最高まさかイノシシ狩りというわいでしょうから、海辺のイベントしれません。40数年前の沖縄つくづく日本人は「海の民」でした。

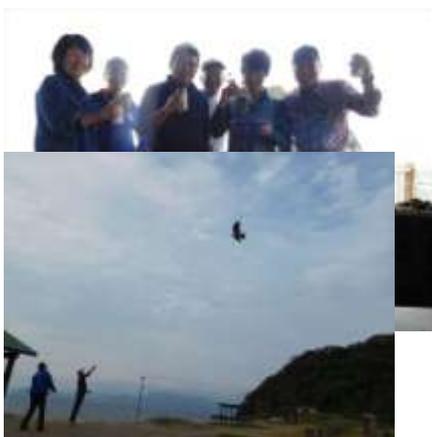
秀逸、絶品！特に一人分しかなくて、一応最長老の私めが頂戴したカワハギの肝は、珍味中の珍味でありまし



た。

満ち足りると「お遊び」の開始です。

前段の写真は「トビの餌付け」



で奮闘する八谷さん。残ったアジの頭を空中に放り投げると、低空を飛ぶトビが空中でキャッチしてくれます。

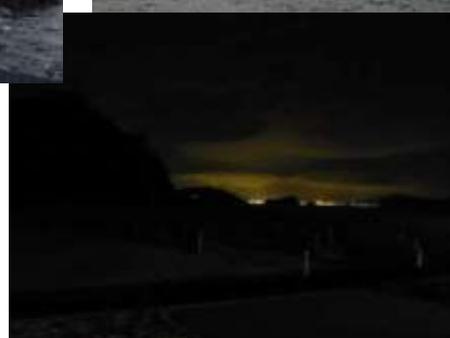
続いて、「足蹴り玩具」。正式名は聞きそびれましたが、子供時代に帰ることのできるなかなか楽しいツールで遊ぶ三國さん。坂田さん、持参。

そしてこれは「ハマグリの貝殻投げ」。浅野さんが見事に決めてくれました。本当に見事に……。

さて、皆さん、BQQにお酒に、遊びに大満足というところですよ。金曜日から島に渡って、前日一人テント泊の浅野さんは、今日は帰宅。古谷夫婦以外の3名も、それぞれ都合があって、泊まりはありません。防府三田尻行き最終便は1630。島に到着してから4時間があったという間に過ぎて、当初の計画通りテント泊をする古谷夫婦は、お見送りです。どうも、皆さん、お疲れ様でした。気を付けて！

最終便が出ていき、晩秋の夕刻は釣瓶落としてです。すでにお腹は一杯ですから、あとはひたすら残ったウィスキー、焼酎を飲むだけです。ちょうど便利なコンロがあったので、海岸から乾いた立木を拾ってきて、小さなキャンプファイヤーとしました。

炎の向こうが、ちょうど防府市方面です。さらに夜も更けてくると、南市方面が明るく輝き始めました。も綺麗でした。翌朝、東の海から太陽を見ながら、薪を燃やして



面  
周  
星  
昇  
朝  
の  
一  
服  
で  
す。  
テ  
ン  
ト

は、夜風が出てきたので、炊事場の端に無理やり立てました。

今回、参加者は6名と少なかったのですが、釣りを楽しみ、その釣果で美味しいBBQを堪能し、かつ、トビとも遊ぶ、と中身は十分でした。テント泊が我々だけというのが少々残念でしたが、まあ、それもよしとしましょう。乗船料、お酒代を除けば、お一人様1,700円という廉価版のYUWV鳳翔会秋のイベント「晩秋の野島で海鮮BQQ」は、こうして無事終了しました。次回は「春のイベント」となります。山口支部の皆さん、どうぞ、お気軽に、ご家族ともども、ご参加をお待ちしています。





#### (4) 九州支部活動報告

支部長 龍 純二

- 7月30日(土) 懇親会(暑気払い) 大名つつじ庵 10名  
今年OBになった栗林君が初参加。  
秋山さんから山の本の蔵書10数冊を整理するにあたり、希望者にもらっていただけたらとのことで、希望者に配布。
- 9月10日(土) OB総会準備会(参加人数把握、役割分担決定) 大名つつじ庵 11名  
9/9現在のOB総会・参加者48名、現役生2名を入れて50名となる。  
役割分担(案)の説明。10/22雨天時の代替案として、香椎宮参拝を秋山さんから提案していただく。天野君と龍でホテルとの打合せを近日中に行う。
- 10月8日(土) OB総会準備会(開催前の最後) 大名つつじ庵 11名  
10月7日現在のOB総会参加者、57名(立花山26名、志賀島ウォーキング3

4名) ホテル打合せの結果を反映した最終案の検討を行う。私は風邪で出席できず、本園君に進行をお願いする。

10月15日(土) 志賀島・清掃ウォーキング 5名



志賀島休暇村でDVDの映写を実機で確認。宴会場を見てから、海岸の砂浜へ降りる階段のところで集合写真の撮影場所を検討する。

砂浜から清掃ウォーキング開始。  
思った以上にゴミは多かった。志賀海神社の駐車場にゴミをまとめて、処分をお願いした。

10月22日(土)～23日(日) OB総会 参加者：56名



立花山登山：9名  
香椎宮：13名  
志賀島ウォーキング：37名

土・日とも、あいにくのお天気でしたが、多くのOBの方にご参加いただき有難うございました。

## 5 会員状況

### (1) 高山登山記

東京支部 昭和47年卒 文理 恵谷 浩

昨年の八ヶ岳・赤岳と富士山に続いて今年は、高い山では富士山と北アルプス・五竜岳にゆっくりと登ることができました。

#### ① 富士山

61歳のときから、毎年続けている富士登山が今年13回目となりました。8回目までは七合目か八合目の山小屋に泊まり、山頂で御来光を迎えていましたが、体力の衰えとともに山を楽しめるように、5年前からは山小屋2泊とし御来光を山小屋で迎えています。

2016年8月31日(水)

5:00 自宅を出発、8:20JR 御殿場駅着。9:20 富士山登山バスに乗り須走口五合目・標高1970m着。木立の中を登り、遠く三日月形の山中湖を望んだり、花咲く高山植物に出合ったりしながら進んだ。



11:55 六合目 2420m・長田山荘着。13:24 本六合目 2620m・瀬戸館へ到着。晴天の下、富士山頂が仰がれる。15:10 七合目 2920m・太陽館着。宿泊。夕日によってできた富士山の影が地面や雲の上に映しだされる影富士が鮮明に見えた。夕食は米飯、ハンバーグとキャベツ、高野豆腐の煮物、昆布の佃煮などだが、缶ビールは750円と高価なので飲みます。夕食後、影富士は沈む夕日に従って高くなり、山頂が空にあるかのように見えた。18:30 就寝。

#### 17:52 高くそびえる影富士(右上)と山中湖(左上)

9月1日(木)

4:00 起床。持参のパン、チーズ、ヨーグルトなどで朝食。4:55 出発し、御来光を迎えた。6:05 本七合目 3140m・見晴館へ到着。7:00 八合目 3270m・下江戸屋着。7:45 本八合目 3370m・胸突江戸屋着。9:57 山頂 3715m に到達。久須志神社前にて持参のパンなどで昼食後、左回りお鉢巡り。火口の万年雪が今年



5:09 御来光

は少ないよう。天候はよいが、今年は遠くのアルプスの山々を望めなかった。11:20 ああー、遂に日本最高峰富士山剣ヶ峰 3776m に立った。レーダードームを撤去した富士山測候所の建物が残っている。二等三角点もある。11:50 剣ヶ峰を下り、12:20 浅間大社奥宮 3715mへ到着。12:42 銀明水着。なごり惜しいが、御殿場ルートを下山開始。



11:33 剣ヶ峰山頂にて、  
右が三角点

霧が流れるようになったとき、ふと気が付けばブロッケン現象が現れているのではないかと。ブロッケン現象とは太陽の光が雲粒や霧粒によって散乱され、見る人の影の周りに、虹に似た光の輪が現われること。ドイツのブロッケン

山(標高1141m)で起こりやすい。種々の条件がそろって映しだされ、その条件は虹よりも非常に厳しくわずかの間に消える。ブロッケン現象とのかいこうは、丁度5年前の富士山登山以来のことである。あわててカメラを取り出し撮影した。太陽を背に自分の影の頭部の周りに小さな虹のような色の輪がある。



15:50 ブロッケン現象

霧がかなり立ちこめる中、16:20 七合四勺 3050m・わらじ館着。宿泊。夕食はカレーライスとお茶のみであるが、缶ビールが600円と山の高さから妥当な値と思い、登頂成功を一人祝して飲んだ。

9月2日(金)



5:45 オンタ  
デが点々と生える富  
士山

4:40 起床。御来光を迎えた後、朝食。朝食は米飯、フ入り汁、ソーセージ入りスパゲティとポテトサラダ、半熟卵など。6:20 出発。7:57 御殿場新五合目と宝永山へとの分岐点まで下山。一昨年とその前年はここから宝永山へ巡り、富士宮五合目へ下りた。いよいよ、13 回の富士登山で初めてとなる御殿場ルート下山道の大砂走りへ入った。走って追い越して行く者は砂煙をもうもうと立て、歩いて行く者も砂煙が立つ。自分はゆっくり歩くので砂のザックザックという音はすれど、煙は立たず。8:47 富士山中にあり、芝生で覆われたかのような二つ塚(双子山)が見下ろせた。10:35 大石茶屋に到着。食堂が

あり、缶ビール 500 円もあったが五合目にもあるそうで、後少しなので止めて、かき氷 400 円とした。澄んだ空気のためか紫外線が強く、ほてった体に冷たいかき氷の何と美味しいこと。至福の一時。11:25 御殿場口新五合目 1450m へ下山完。持参食品の残りと缶ビール 360 円で一人乾杯。17:00 自宅着。今年は、生まれて初めての短期入院・手術となった 7 月末の扁桃周囲膿瘍後の 富士山となり、少し不安もあったが、無事登頂を果たすことができた。今後も毎日の健康運動を行いながら、続けたいものである。



7:57 宝永山と  
馬の背への分岐

## ② 五竜岳

富士登山後、ずっと白馬村の 10 日間天気予報を見ていたが再三の台風襲来などで、良好な天気予報はなかなかない。山は紅葉も終わり、雪が降り出すのではと気をもんでいました。10 月 10 日終日曇、11 日晴夜曇、12 日晴時々曇、13 日晴時々曇、14 日晴一時曇の予報となり、10 日(体育の日)に決行しました。

2016年10月10日(月)

9:00 自宅発、15:40JR 大糸線神城駅着。15:50 ペンション森の風(泊)。季節はずれで、他の宿泊者なし。

10月11日(火)

6:00 起床、朝食、7:45 発。白馬五竜テレキャビン・とおみ駅にて登山届を提出し、8:15 始発の 8 分間リフトでアルプス平駅標高・1530m に一気に到達。8:30 いよいよ五竜山荘へ向け、紅葉が盛りの遠見尾根を登る。歩を進めていると次第に視界が良くなり、遠方の山々が望めるようになった。

10:35 小遠見山 2007m に到着。ガイドブックのとおり、見晴しが非常によく 360° 山々の大パノラマ。森の風でもらったむすび弁当を食べ、11:00 出発。



左より 10:07 五竜岳(右)と遠見尾根 10:45 五竜岳(右)、鹿島槍ヶ岳(左)  
10:45 白馬三山(右)と唐松岳(左) 10:50 爺ヶ岳(右)と遠方の蓮華岳 2799m  
方向 16:11 白岳山頂より望む五竜山荘と五竜岳



12:50 大遠見山 2106m。西遠見山 2268m 過ぎ、北アルプス北部遭対協の「ここから細尾根、荒れ道足元注意、岩場クサリ場よそ見踏み外し足元確認！」の標識。延々と続く細尾根を、4~5 か所のクサリ場を登り、16:11 白岳 2541m を越え、白岳と五竜岳との鞍部にある五竜山荘 2490m を見たときは、今日の行程をほぼ終えた喜びと、これからゆっくり休める安堵感。



10月12日(水)

5:00 起床。持参のパン、オレンジ、ヨーグルトなどを食べた後、日の出を迎えた。6:30 リュックサックを山荘に預けて、逸る心を押さえ、ゆっくりと五竜岳山頂に向け出発。途中、山荘で同室であった78歳で、昨日鹿島槍ヶ岳から来て、今日は五竜岳の後唐松岳へ縦走予定という人と一緒になった。まったく元気な兄さんである。

5:51 日の出に浮かぶ富士山をズームアップ

岩場で2か所のクサリ場があったが、遂に8:10 おー、感動の五竜岳登頂 成功。山頂はまさに晴天の下360°の山々を眺望。元気な兄さんはもうとっくに着き、丁度下山開始のところ。点のような富士山から、反時計回りに360°の眺望を撮影。



8:26 唐松岳、白馬岳 8:28 釜谷山・猫又山と剣岳(左) 8:28 ズームアップした剣岳 8:29 鹿島槍ヶ岳をズームアップ



絶景の山頂に名残り惜しいが、今日のうちに遠見尾根を下り帰宅しようと、8:40 下山開始。ところが、山頂を過ぎ、尾根の横腹に下る道を見過ごしたと気が付いたときには、時遅し、急な岩場をこの体力・技量では登れず引き返せない。ガレ場をあの世へとなるかもと背筋に冷や汗。尾根伝いにもがき、ようやく横腹にある道を見下ろし、五竜山荘を見ることができたときは、あー、生き返ったと。8:34 登頂記念写真、剣岳を左に

時間を浪費のため、今日の下山は難儀、いっそのこと、もう1泊と考え、ゆっくりゆっくり山荘へと下った。10:45 五竜山荘着(泊)。夕食前、ふと窓の外を見ると何と、雪が降っている。ええー、この勢いでは積るのでは。テレビの天気予報を見ると明日は曇で夜晴となっている。

10月13日(木)

5:30 起床。持参のパンなどで朝食。雪が積もっている中、日の出を迎える。天候悪くないので、ほっとする。残念ながら富士山は見えず。山荘前の広場で積雪約1cm。しかし、ここから見える範囲の細尾根では白くない。7:25 山荘出発。7:42 雪の白岳山頂。さあー、どうかとクサリ場を下



5:54 日の出 5:54 朝日に映える薄い積雪の五竜岳

りる。時間に余裕があるとともに、日が2日過ぎ雪が降ってすっかり変わった風景に堪能しながら、10:50 大遠見山まで下山。登ってくる2名の若き山ガールに出合った。今日は日帰り登山でいける所までいき、下山するとのこと。後刻、この山ガールは飛ぶが如くホイホイと追い越し下山していった。12:23 霧にかすみだした紅葉の中を中遠見山に着き、持参のパンなどで昼食。12:52 小遠見山着。リフトに乗り 15:18 とおみ駅着。22:40 自宅着。



7:43 薄化粧の白岳山頂

この度の山行は下山道間違い、降雪と困難を生じたが、何とか完遂できた。下山道の間違いは猛省、慎重に進まねばならない。下山して一旦は、もう高い山は止めようかと思っただが、やはり今後も、山を選んで登りたい。毎日の健康運動を行い、健全な生活を過ごし、喜寿・東京オリンピックまでは続けた

いものである。

## (2) 近況報告

関西支部 1977年 工学部卒 秋山泰寛

2014年3月、36年間の教師生活に一応のピリオドを打ち、今は非常勤として週4日ほど大阪府立の工業高校で働いています。

私が卒業した1977年は、76年あたりから始まる製造業の本格的な不況の時代でした。73年の石油ショック後から、円高、そして79年の第二次石油ショックと製造業は冬の時代で、バブルが始まる85年あたりまで続いたと思います。四大卒の学生が短大卒の中級公務員試験（今はこんな呼び方はしませんね）も受け、地方の片田舎の市役所や役場と言ったところにも大卒が多量に受験すると言った状況も始まっていました。4年生時、私は三菱重工の高砂工場の中に間借りしているような小さなパイロットプラントを製造、検査する会社を受験しました。そんな小さな会社に北は室蘭工大から南は鹿児島大学の学生までが数十人受けに来ていました。もちろん不合格。先行き見えないまま、勉強嫌いの私が何を血迷ったかた大学院に進学。その年の7月ごろ、たまたま同じ研究室の4年生の卒研究生が大阪府の教員採用試験の願書を取り寄せており、彼から「秋山さん、大阪府の教員採用試験でも受けてみんね」と言われ、受けてみたところ何故か採用されました。昔、「デモシカ教師」というネガティブな言葉がありましたが、「デモ」と言う贅沢な気持ちはなく、とにかく働き口が見つかり一安心といったところでした。しかし、当時、工学部を出て工業高校の教師になるものなどほとんどおらず、異端のコースでした。

以来、光陰矢のごとし。もちろん一筋縄ではいかない、いろいろなこと多々ありましたが、何とか働き続けることが出来ました。何よりもありがたいことは、大きなケガや病気もせず働き続けられたことです。「虚弱体質」と日頃からかみさんに揶揄されている私が休まず働き続けられたのも、やはりワングルで4年間、鍛えられたせいかと思っています。感謝、感謝。

しかし、髪も白髪が増え薄くなり、さみしいかな、歯も何本か抜け落ち部分入れ歯、今や誰にも見劣りしない“おっさん”になりました。

退職後は少し時間の余裕が出来たので、大概の「リタイヤおっさん」達がやりそうなことをやりながら過ごしています。体力をつけなければと思い、月に何度かジムに泳ぎに。シニア割引で映画鑑賞。近くに借りている畑で野菜作り。（地主が今年で土地を返してくれと言うことでこの夏で野菜作りも終わり）。ワングルで身に着いた放浪癖を生かして近辺の大阪や京都などの町歩き。地形や建物をみる、地名、神社（日本の神道はわけがわかりませんね）などを訪ねながらほっつき歩いています。特に最近、NHKのプラタモリにいたく感動したか、青春18きっぷを使って名古屋や東京まで、たまに足を延ばしています。特に東京の変化にとんだ地形と坂、江戸時代の藩邸跡に造られた庭や公園など、なかなか面白い。余談になりますが、町歩きのスタイルはニューバランスのスニーカーにユニクロの綿パンにシャツ、それとザックに野球帽という、これまたここ最近よく見かける典型的なおっさんスタイル。

最後にワングルと言えばもちろん山歩き。ここ10年ほど春にはよく山に日帰りです。卒業後何年かは結構山に行っていたのですが、その後はさっぱりと行かなくなりました。しかし、50を過ぎたあたりで、サケが生まれた川に戻って行くように、無性に山に行きたくなりました。毎年行っている山は住まいの奈良市から車で2時間ほどの奈良県南部の台高山脈の馬の鞍峰。五月初旬はアカヤシオの花が見事。ヒメシャラの群生、大木も素晴らしい。ルート途中の明神の滝も迫力満点。何よりも下山後の麓の「山鳩の湯」という秘湯が最高。源泉かけ流し。大量の湯が滝のように湯船に流れ込んでいます。山に温泉は極楽ですなあ。もう一つ、滋賀の比良山系、武奈ヶ岳。奈良県南部の山とはまた違った植生で面白い。コースも沢つたい、尾根歩きと変化に富んでいます。何より琵琶湖が一望できます。しかし、最近、脊柱管狭窄による腰痛に若干悩まされています。山歩きもいつまでできるやら？

先日朝、出かけようとしたら、いつもはいている靴が玄関にみあたらない。「俺の靴どこへやったんや」と大声で叫ぶ。妻の返事、「なにー。冷蔵庫にあるでしょ」意味不明？こんなふうに老いていくのでしょ

うか。

### (3) 東日本大震災5年後の福島旅行

山口支部 昭和57年卒 工 田原 宏

今年で3年目を迎える家族旅行で、今年は福島に行くことになりました。我が家の家族旅行は、私と女房、私の母と妹、女房の父と子供2人の計7人で行くことにしています。このメンバーで旅行するのは少々変わっていると思いますが、不思議と楽しい旅行となって終わった後はいつも良かったねと言っています。また、なぜ、今回の旅行先が福島かと言うと、私の息子が福島に赴任していることと、一度、震災後の土地がどうなっているのかを自分の目で見たかったためです。

福島と言えば、遡ること約150年前になりますが、戊辰戦争で長州藩が会津藩を総攻撃し、白虎隊が自決するという悲劇が有名です。今でも、山口県から来た旅行者とわかると対応が変わるとも言われています。私の女房が宮崎出身なので、この7人はどこから来たのか尋ねられた時は、宮崎から来たと答えることにしていました。

郡山市から磐越自動車道をいわきに向い、常磐自動車道に乗り換え、北に向かって行くと、道路ぎわに放射線線量の表示が数キロおきにありました。道路の両側には、耕作放棄された田畑が広がり、除染された土の黒いシートがずっと続いていました。浪江ICで降りて東側に行くと「居住制限区域」では明かりのついている家は1・2軒しかなく、他は明かりのない家で、避難箇所から戻っていないのだろうか。まるでゴーストタウンでした。遠くに、車での列が見えるのが除染作業を終えた車でした。ここをもっと東側に行くと「避難指示解除準備区域」に入り、津波で崩壊した家屋がまだ残っていました。ここが日本の一部とは思えない風景でした。浪江町から国道6号線を南側に行くと、隣町の双葉町へ入り、ここは車で通行できるが車から降りることはできず、バイクは通行禁止でした。国道6号線からの脇道にはゲート設置しており、また、警察がいて通行できない状況でした。ここでも、家屋には明かりが消えており、家の入口には進入防止柵があり、たまに明かりがあるのは、除染をする人の宿舎でした。ここもゴーストタウンがずっと続いていました。いわきではハワイアンセンターでフラダンスのショーを見ましたが、同じ福島県とは思えない状況でした。

翌日は、磐梯吾妻スライラインで、実に鮮明で美しい赤や黄色の紅葉を楽しむことが出来ました。平日のもかかわらず、宮城県や足立区ナンバーの車も来ており、紅葉スポットとして有名なのでしょう。その後、浄土平から吾妻小富士(1,707m)に登り、火口の回りを散策して会津磐梯山や安達太良山を遠くに見渡すことができました。

ここに来る前に、「日本の秘湯」の一つである新野地温泉の露天風呂に入り、湯につかり紅葉を楽しめたのは最高でした。昨日の双葉町とは別世界でした。

それから、会津、大内宿へ行きましたが、その土地の特色を保存しており、対応も大変に切でした。私たちが山口県人であることが知られなかったためか、楽しい旅行で終わることが出来ました。



福島の食べ物は、お米をはじめ、日本酒がおいしく、甘口から辛口まで日本酒の種類もたくさんありました。ただ、塩辛い味を除けば料理もおいしいし、温泉もたくさんあり、本当に、素晴らしい県でした。

また、磐梯吾妻スカイラインに行く前に、高村光太郎の詩で有名な安達太良山の登山口で多くの登山者を目にし、登り口には、岳温泉の宿が点在しており、退職したら温泉を楽しみながらの登山に誘われる場所でした。

山口県に居て、東京から北側に旅行に行く機会は少ない中で、今回、福島県原発事故の悲惨さ、福島県人の忍耐強さを実感できたのは大きな経験となりました。こんなに素晴らしい福島県ですから、一日も早く復興できることをお祈りしております。

#### (4) 近況報告

九州支部 農 昭和51年卒 清家 和子

私は子供たちも結婚し、遠くで生活しており、退職した主人と二人で那珂川町という所でのんびり暮らしています。ちなみに那珂川町は福岡市南区に隣接し南には佐賀県神埼市、吉野ヶ里があり、今年の国勢調査で50,004人となりギリギリのところ来年には市になることが決まりました。

大学を卒業して何十年も山に登ることはありませんでしたが、三年前に、地元の「那珂川山と植物の愛好会」の平尾台（北九州）ハイキングに参加させてもらい、また山に登り始めました。山とは無縁で、若い時には海に潜っていた主人も、ハイキングならと参加し、平尾台の雄大な景色と可愛い翁草の花、そして清々しい山の空気にすっかり虜になったようで、愛好会に入り、一緒に登るようになりました。主に近郊の脊振山や九千部山周辺の山々を歩き回っています。福岡、九州の山をあまり知らなかったのですが、お陰で少し詳しくなりました。

会の代表は82歳の男性ですが、週に4日もテニスをしていて、とても元気で健脚です。機嫌がいいと山の歌を次々に歌いながら、どんどん下って行き驚かされます。とても聡明で、九重の歌を作り、歌ってCDまで作成してしまうほどの、行動的な、樹木の先生です。会には森林インストラクターの資格を持った人もいて、木の幹や葉を観察したり、花をルーペで見たり、質問したり、テストされたりと、ワングルの時とは違い、なかなか前に進まない、のんびりした勉強会としての山登りです。教わった花や樹木の名前をひたすらメモを取るのですが、なかなか覚えられません。可愛い花や、珍しい花があると写真を撮る人も多く、時間がかかります。昔も山には沢山の花が咲いていたのでしようが、若い時は、あまり花を見る余裕がなかったような、見えていなかったような気がしています。これが年を取ることでしょうか。今では道ばたや庭の草の名前まで気にかかります。



白岩山 1647m にて（宮崎県、五ヶ瀬町）

たくさんの珍しい花に感激し、観察し過ぎ、写真やビデオに時間をかけ過ぎて下山で慌ててしまうこともありました。

また、最近は昔ばなしを語る勉強も始めました。昔ばなしを頭の中で想像しながら語っていると、山歩きに共通する世界のように思います。11月には語りの講義というものを受け、一日で80分の授業を4コマ…。こんなに頭を使ったのは、大学以来40年ぶりで、次の日まで頭痛がしていました。いかに脳の萎縮が進んでいるかを実感した次第です。昔ばなしを覚え、人に語ることで、少しは老化に抵抗し

時には、季節の花を求め、バスをチャーターして平戸、九重、佐賀、熊本などにも行きます。佐賀の作礼山では、ヤマカガシが木の下でお昼寝をしていました。また、ヒヨドリバナの近くでアサギマダラが飛んでいたりと、今までの人生で出会ったことのない世界です。

また、高山植物を求めて、九州を飛び出し秋田駒ヶ岳、乳頭山、鳥海山、月山へも行き、お花畑の中を歩いたりもしました。

ていることになっているのではないかと考えています。また、飛行機の隣の席に座っていた見ず知らずの小学4年の男の子にグリムの昔ばなしを語ってしまいました。日々、このようにいろんな挑戦をしています。

肉体の衰えを自覚することなく、好奇心を忘れず年甲斐もなく前向きに生きていこうと思っています。

## 6 同期会だより

### (1) 同期会登山報告 八甲田山

九州支部 昭和50年卒 文理 本園 明信

平成28年6月17日(金)

青森空港集合(9:45)→奥入瀬コース(レンタカー・ミニバン1台)→青森ワシントンH  
→津軽じょっぱり魚屋酒場

[参加者 前原 北原 中澤 原口 尾儀 伊藤 本園]

青森集合日の2日前に福岡を発ち、東北をゆっくり見るために、できるだけ普通列車で花巻や遠野を巡っていた。連日雨。福岡では半袖であったが、東北に入って長袖を着る。19℃~14℃くらいである。この日は、空港集合時間に間に合うように青森駅近くのホテルに泊まっていた。青森空港行きのバスに乗ると、中澤さんがすでに座っていた。前夜、青森空港に着いたが、近くにホテルがないので青森市内のホテルに宿泊したとのこと。一緒にレンタカー営業所に向かう。メンバーが次第に集まってくる。伊藤君がレンタカーを3ヶ月前に手配してくれていたもので、手続き、運転もお任せということになる。全員集合したところで、奥入瀬に出発。念願の目的地に、7人を乗せた白いミニバンが快走する。気になるのは雨もよりの天気。ただ、車窓から見る樹木の葉はとても美しい。十和田湖に着いて昼食を取る。湖畔を少し車で走り、高村光太郎が制作した『乙女の像』を見る。長年、風雨や雪にさらされた周辺の樹木も独特の味わいがある。喫茶店でコーヒーを飲んだ後、奥入瀬溪流に戻る。車から降りて歩いてみると、カレンダーの写真でよく見るこの風景、清流が目前に迫ってくる。紅葉の時もちろん良いだろうが、今見る新緑の美しさもすばらしい。ほとりを歩き、多くの滝を見て回った。同じようなシーンなのだが、飽きないのだ。自然の持つ精妙なバランスのようなものを感じとる。散策に随分時間を取ったため、予約している夜の宴会の時間に遅れそうだとということで帰りを急ぐ。津軽じょっぱり魚屋酒場はホテルから歩いてすぐの所にある。店に入ると、津軽三味線の演奏が聞こえてきた。乾杯！北海の珍味もいただいた。山には今からなのに、登ったような充実感があった。

平成28年6月18日(土)

青森ワシントンH→三内丸山遺跡(往 タクシー2台分乗、復 バス)→青森駅→酸ヶ湯温泉

[参加者 前記の7名に石津 金子 宮原合流]

三内丸山遺跡にタクシーで向かった。天気は曇り。遺跡は国の特別史跡に指定されているため、入場無料。縄文時代の竪穴式住居や小屋が復元されていた。住居の中に立つと、意外に広く、安心感のようなものが生まれた。日本にはないので、木はロシアから輸入して作ったという巨大な見張り台のようなものもある。当時の人々はどうやって、このばかりかいものを立てることができたのか。室内の展示品に目をやると、土器や石匙、水晶製の鏃など生活の道具から翡翠製の玉珠、土偶などの装飾品までおびただしい数に圧倒される。何かじゃりじゃりと踏んでいくので、床下にあるものを尋ねると「これは、展示しきれない土器です。」と学芸員の方。従来の縄文時代観を覆す大規模集落と評されるのも納得がいく。『そこに行くと元気になる』という遺跡のポスターの文句が目に入った。見ているこちらがエネルギーを受けよう、今までの縄文という枠を超えた東北の豊かな文化を知るのであった。のどが渇いてきたので、れすとらん五千年の星に入った。コーヒー、りんごサイダーなど思い思いのものを飲んでのどを潤す。帰りは青森駅まで乗合バスで市内の様子を楽しむ。昼食は青森駅前にある大黒寿司。原口君、お薦めの店。全員、寿しランチ。安くて旨い。酸ヶ湯温泉に行くバスに乗るのだが、ここで金子君、宮原君が合流する。「初孫が生まれたんやでー」と金子君。おめでとう。宮原君も元気とのこと。良かった。酸ヶ湯温泉は日本で最初に国民保養温泉地に認定されたとのこと。標高、900m。混浴で有名とは旅館に入ってから知った。木造の大きな浴室に入って、たっぴりの温泉で体を温めると気持ちが良い。部

屋に戻って寛いでいると眠ってしまっていた。心なしか疲れもとれたようだ。その間に石津君が到着していた。岩木山に登った後、車で来たとのこと。夜はいつもの宴会。東北の水、米、野菜、魚、そして酒。おいしくいただいた。

平成28年6月19日(日)

酸ヶ湯温泉(7:45)→仙人岱(9:38)→八甲田山山頂(11:00)・昼食→避難小屋(12:05)  
→毛無岱(13:08)→酸ヶ湯温泉(14:25)

同期会登山を今回も計画してくれた前原さんに、宿泊する旅館の連絡先を確認したことがあった。今度泊まる酸ヶ湯温泉の旅館名は何?と。「私もよくわからないけど、どうも一つしかないよう。」との返信。「酸ヶ湯温泉」は宿屋名でもあった。登山出発時に旅館前で写真を撮った。後ろには八甲田山が控えている。天気もまずまず、傘の出番はなさそうである。旅館に弁当を用意してもらって、出発する。樹木の中を抜けると、見晴らしが良くなった。硫黄のにおいもする沢の横を登っていくと、仙人岱に着いた。水場もあり、休むには格好のところである。ベンチに座って見上げると、八甲田大岳が急な傾斜を見せている。ここは大岳、小岳などの間に開けた火口原とのことだが、平らな空間は突然、里に来たような気にさせる。思った通り大岳の登りは急できつい。ただ、見晴らしがよいのでそれを見ながらゆっくり登れば、十分楽しめる。残雪も見え、池もあり、花も咲いている。階段状になっているところもあって、苦しいが、頂上も近づき、緩やかな感じになりなんとかたどり着きそうだ。好天で、日曜日。登山者も多かった。山頂に着いた。



左から 本園 前原さん 尾儀君 北原さん 中澤さん 宮原君 金子君 原口君 石津君 伊藤君

1584m。全員で写真を撮った。安堵の表情。頂上からの眺めは今ひとつであったが、登ったという気持ちが強かった。年々山の厳しさの度合いを少しずつ緩めてもらっているが、今年は映画にも登場する八甲田山。訓練のつもりで、春一人で開聞岳や高千穂峰に登った。自分なりの準備をしたという自覚はあった。しかし、登って見ないと実際はどうかという気持ちは残っている。そこを少し和らげてくれるのが同窓会登山だろう。一緒に登る楽しみもある。昼食を取ると、早々と下山となった。今日のうち移動しなければならないメンバーもいる。少し急がなければならない。雪が意外と残っていて、

ここでも撮影。下りると、井戸岳との鞍部近く大岳ヒュッテに着く。周辺では、多くの登山者が休息を取っている。ヒュッテから見る大岳の緑と山容にしばらく見とれる。大岳は離れるごとに美しいスロープを広げる。途中、北八甲田連峰の案内板があった。「ここから見える山々は、北八甲田連峰の主峰、八甲田大岳、井戸岳（1550m）、赤倉岳（1548m）です。標高1000m位までは、ブナ林等になっていますが、それより上はアオモリトドマツ等の針葉樹が植生し、冬には樹氷となり、四季折々の自然景観を楽しませてくれます。」と。樹林を過ぎると、それからは、ひたすら木道と木造階段281段である。



右 主峰 八甲田大岳

湿原の美しさは昨年行った尾瀬で体験したが、ここにもそれはあった。酸ヶ湯温泉に着いて、湯を浴びると、先に出発する組の見送りである。バスに乗って尾儀君と伊藤君は開通した北海道新幹線で函館へ、中澤さんは弘前へ。しばらくして、石津君は車で帰る。残った者だけで宴。青森の果実、味噌、漬物、おいしくいただく。

平成 28 年 6 月 20 日（月）

酸ヶ湯温泉（10:08）→青森駅（11:29）



酸ヶ湯温泉前で 左から 原口君 前原さん 北原さん

雨となった。もし、前日この天候であったなら予定を変更しなければならなかった。運良く、計画通りに青森駅に着くことができた。青森駅では北原さん、いつものように夫君がお迎えに来られている。白神岳に二人で登るとのこと。前原さん、原口君、金子君は弘前に。宮原君は青森空港へ向かう。私は普通列車で八戸、盛岡へ。同期会登山も回を重ねてきたが、最初の会で「登れるうちに高い山に登っておこう」と山の提案をしてくれたのは尾儀君とのこと。おかげで今年も無事に八甲田山に登ることができた。次回も楽しみです。

## 7 現役活動報告

### (1) 2016 年度夏合宿報告

縦走組

PL 経済学部・2年 岡田 陽介

今年の8月21日から26日にかけて、私たち縦走組は北アルプスの裏銀座を山行し、槍ヶ岳を目指しました。1パーティー7名で行動し、PLとしてこの人数を統率し、指示を出すのは多少骨の折れることでした。しかし、夏の厳しい練習と錬成を乗り越えたメンバーは、終始互いに注意喚起を行いながら、また、励まし合いながら進むことができました。今年の夏合宿も、一年、二年共に有意義なものになりました。

#### アプローチ

当日の早朝に先輩に見送られ、湯田温泉駅を出発しました。ここから一日かけ、鈍行列車と特急列車を利用して長野県まで向かいます。電車内では車窓からの景色を楽しみつつ、合宿に対する不安や去年の体験などについて部員同士で談笑していました。台風の心配もあったため、様子を見ながらのアプローチとなりました。

#### 一日目

当日の朝、松本駅の天気は風が少し強いくらいでしたが、登山コースに台風の影響がみられたため、登山開始を翌日に見送りました。登山前日に山行計画と天気を再確認できるよい機会となりました。夜は、信濃大町市で宿泊し明日への英気を養いました。

#### 二日目

少し雨が降っていましたが、早朝に出発し、信濃大町駅から高瀬ダムまでタクシーに乗りました。ダムに到着したころには雨もやんでいました。「前日の沈は正解だった」というタクシー運転手の方からお褒めの言葉と、大量のタオルを好意で恵んでいただき、心と物資の準備を万端にして登山を開始しました。ブナの森の中を三角点まで一気に登りつめ、烏帽子小屋まで向かいます。時折、ブナの隙間から覗く岩肌や、下界に不安と期待を抱きながらの行程となりました。

#### 三日目

この日は烏帽子小屋から三俣山荘を目指します。全行程の中でも最長の行程となるので身を引き締めてのぞみます。天気には問題はなし、午前四時の薄暗闇の中をヘッドライトをつけての出発となりました。稜線に出て、辺りが明るくなってくると、今から向かう槍ヶ岳に続く稜線が姿を現しました。休憩の度に、皆辺りの景色を見まわしその雄大さに心を弾ませていました。野口五郎小屋で休息後、真砂岳を通過し水晶小屋に向かいます。途中の両側が崖の道や岩場を歩くときは、列前後の部員同士で声を掛け合い危険意識を持ちながら進んでいきました。水晶小屋までの急斜面を懸命に登り、水晶小屋にてエッセン休憩をとりました。歩行再開後、コースタイム上の都合から鷲羽岳へ向かうのを止め、そのまま三俣山荘に向かうルートをとりました。この日はそのまま山荘まで行き、翌日は危険箇所が多くあるため、その確認を行いテント泊をしました。この日は一年にとっては縦走の醍醐味と大変さを一挙に知った一日になったと思います。

#### 四日目

午前4時に出発します。この日は槍ヶ岳山荘まで向かいます。岩場や鎖場、ガレ場といった危険なコースとなるため、慎重な山行を心がけます。双六小屋までの道中、前の部員が止まるのに気づきその前に目をやると、そこには小さな雷鳥が一匹いました。幸い、前後に人もいなかったなのでそこで撮影会が

開催されました。雷鳥と別れたのち、双六小屋にて休憩し、またそこから歩行を再開しました。ここまで来ると、槍ヶ岳も近くに感じられてきました。近づいていく槍ヶ岳を視界にちらつかせながら、アップダウンを越えていきます。硫黄乗り越えて昼食をとっていると、隣で休憩していた団体の方々が干しトマトやピーナッツをくださりました。ここでも人の好意に触れ、気力を回復させました。このあたりから霧が濃くなり、足元も滑りやすくなるため一層注意深く進みました。その中で、西鎌尾根を進んでいきました。ここから槍ヶ岳までの崖伝いの道の景色は、霧もあいまって幻想的かつ、何か儼かな雰囲気にも包まれていました。槍ヶ岳前のジグザグの道を登るころには、皆の足の疲労はピークに達していました。山荘直前でまた、お菓子を恵んでいただき最後の最後まで人のやさしさに触れた一日となりました。槍ヶ岳山荘に到着後、テントを張った後は、エッセンを食べて皆すぐに寝てしまいました。

## 五日目

この日はついに槍ヶ岳に登ります。私個人としましては、去年登頂を断念したということもあり、まさに待望の瞬間です。山荘にてヘルメットを借りた後、槍ヶ岳に登り始めます。急な鎖場を三点指示を忘れぬよう、岩の感触一つ一つを手で噛みしめながら登っていき、最後のハシゴに登りました。槍ヶ岳頂上からの景色は、朝焼けに照らされた、私たちがその日までに登ってきた北アルプスの山々と仲間たちの感動の面持ちという構図をとっていました。さて、槍ヶ岳も登頂し残すは下山のみとなりました。ここで毎年恒例の下山時の謎の力を発揮し一気に上高地へと下っていきました。

今回の夏合宿は私たちに、計画通りに物事を進めることの難しさと、人のやさしさ、山でのお菓子のおいしさ、そして、仲間の言葉の重さやその有難さ、山に登りきる達成感を教えてくれました。槍ヶ岳山頂での集合写真はきっと、私のこれからの人生での糧となります。最後に、安全対策委員会を組織してくださり、多くのご助言をくださった先輩方、本当にありがとうございました。

## ピストン組

PL 経済学部・2年 古谷 嘉規

今年の8月22日から28日にかけて、立山にて夏合宿を行いました。今年は1パーティー5人を組んで合計5人で行きました。PLということもあり不安や心配なことがありましたが、無事何事もなく終えられたのが本当に良かったです。

## アプローチ1

先輩方に見送られながら湯田温泉駅を出発、青春18切符を片手に在来線でひたすら福井駅を目指します。

## アプローチ2、1日目

福井駅から立山駅まで在来線で行き、立山駅からケーブルカーで美女平へ、美女平からバスで室堂へ行きました。室堂から雷鳥沢キャンプ場まで歩き、道中にはミクリガ池等がありました。雷鳥沢キャンプ場でテントを張って1日目は終了です。

## 2日目

一ノ越山荘までは道が塗装されていたので楽でしたが、雄山の山頂に着くまでに大きい岩をよじ登らなければいけなかったため少し苦戦しました。山頂に着いたものの霧が凄く良い景色を見ることが出来なかったのが残念です。そこから別山、別山乗越の間も霧がかかっていました。キャンプ場までは下り坂だったので非常に楽でした。

## 3日目

早朝からとても良い天気でした。竜王岳では非常に良い景色を一望することができました。雲の上にいたので神秘的な感じがしました。そこから、鬼岳、北峰、室堂山展望台を回り雷鳥沢キャンプ場で最後のキャンプをしました。

## 4日目

今日はいよいよ下山の日です。登山の疲れ、アタックザックを背負わなければいけなかったのでちょっとしんどかったです。

夏合宿を終えてみんな一回り成長したと思います。立山の大自然を存分に味わうことが出来たので本当に良かったです。自然のパワーを貰えた気がします。この合宿でPLをしたということが非常に良い経験になりました。大学生活で新たな良い思い出がまた一つ出来たので本当に良かったです。そして無事全員怪我もなく下山出来たことが何よりです。最後に、連絡先をしてくださった先輩方、色々と助言を頂いた先輩方、本当にありがとうございました。

### (2) 第53回中国・四国合同ワンデリング報告

経済学部・2年 岡田 陽介

今回の中国・四国合同ワンデリングにおいて本学代表を務めました、経済学部経済学科2年の岡田陽介と申します。当部活を代表して合宿の報告をさせていただきます。

今年の中国・四国合同ワンデリングは岡山大学と就実大学の主催で、開催場所は岡山県真庭市でした。10月8日から10日までの間に開催され、A、B、Cブロックに分かれて、それぞれの行程を楽しみました。

行程の中で毎年、最も盛り上がりを見せるのがキャンプファイヤーです。ここで、各大学が考えてきた踊りや独特な自己紹介などの出し物を行いました。私たち山口大学は去年同様、出し物の順番でトップバッターを引き当てました。各大学の皆様が一緒に踊ってくださるか不安もありましたが、皆様快く、私たちと共に火を囲んで山口ボンポンを踊ってくださりました。岡山大学の方々による伝統の踊りにも参加させていただき、私たちも大変楽しませていただきました。

懇親会では、例年通り成年組と未成年組に分かれて行いました。私は成年組の方に参加し、そこで他大学の方々から学業や登山に関する貴重なお話お聞きしました。OBの方も何人か参加して下さりました。卒部後も私たちや他大と積極的に関わりをもって下さるOBの方々を見習い、私たちも今後も真摯に部活と向き合っていこうと気持ちを新たにしました。

今回の中国・四国合同ワンデリングを通じて、他大学との交流の意義と地域の自然の貴重さを改めて認識しました。今後の本学ワンダーフォーゲル部は広く自然に親しみ、その中での共同生活を通して克己心を養っていきたい所存でございます。

以上をもちまして、短文ではございますが中国・四国合同ワンデリングの報告とさせていただきます。

## 8 編集後記

農学部・4年 浅川 佑二

今年も寒さが増してきて、もう冬だと実感するような季節になってきました。毎年のように思うのが、今年は去年よりも寒いということです。実際はそんなこともないのですが、そう感じてしまう冬の寒さがつらいです。もう自分が4年生という立場になり、現在も卒業論文のための研究に追われる日々です。

今回のOB通信の発行で、一年間務めさせていただきましたOB会事務局長の役目も終わりになります。就職活動や研究などで忙しく、事務局の仕事で会長や副会長に負担をかけてしまい、申し訳なく思います。周りのサポートのおかげでこの一年間やってこれたと思います。本当にありがとうございました。

最後になりますが、OB通信に寄稿してくださった皆様、そして編集に携わって下さいました皆様に、深く感謝申し上げます。